

METHOD FOR MANAGING PERSONAL INFORMATION, MANAGING DEVICE, MANAGEMENT SYSTEM, PERSONAL INFORMATION MANAGEMENT PROGRAM AND RECORDING MEDIUM HAVING THE PROGRAM RECORDED THEREON

Publication number: JP2002342170 (A)

Publication date: 2002-11-29

Inventor(s): NAGATA MASAYA

Applicant(s): SHARP KK

Classification:

- international: G06F12/14; G06F15/00; G06F17/30; G06F21/20; G06F21/24; G06F12/14; G06F15/00; G06F17/30; G06F21/00; G06F21/20; (IPC1-7): G06F12/14; G06F15/00; G06F17/30

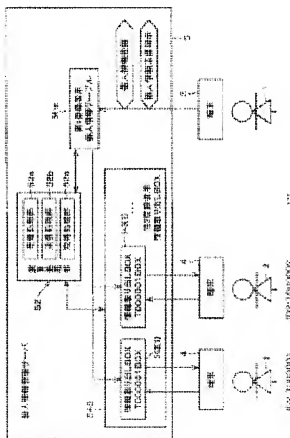
- European:

Application number: JP20010146902 20010516

Priority number(s): JP20010146902 20010516

Abstract of JP 2002342170 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To conveniently and quickly provide a third person with personal information by simplifying registration work of overlapping personal information. **SOLUTION:** The personal information about a first registrant 1 being a personal information registrant is registered in a personal information table 541a for the first registrant in correspondence with the ID of the first registrant. Also, the personal information of a second registrant 2 who requests personal information is registered in a personal information management server 5 in correspondence with the ID of the second registrant. When a transmission destination of registered personal information is selected, the personal information management server 5 specifies an information fetch box 543 (1).... in accordance with the ID of the second registrant 2, reads a record of the personal information corresponding to the ID of the first registrant acquired from the first registrant 1 from the personal information table 541a for the first registrant and copies the record to an information fetch box 543 (n). The second registrant 2 accesses the information fetch box 543 (n) with his/her own ID and obtains the personal information.



Data supplied from the *esp@cenet* database — Worldwide

(51) Int.Cl. ⁷	機別記号	F I	サブコード ⁷ (参考)
G 0 6 F	12/14	G 0 6 F	3 2 0 C
	15/00		5 B 0 1 7
	17/30		3 3 0 A
			5 B 0 7 5
			1 1 0 F
			5 B 0 8 5
			1 2 0 B
			1 7 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 20 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-146902(P2001-146902)

(22) 出願日 平成13年5月16日 (2001. 5. 16)

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 永田 昌也

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ

ャープ株式会社内

(74) 代理人 100080034

弁理士 原 謙三

F ターム(参考) 5B017 AA07 BA05 CA16

5B075 KK07 KK43 KK63 KK64 ND03

QM01 UU08

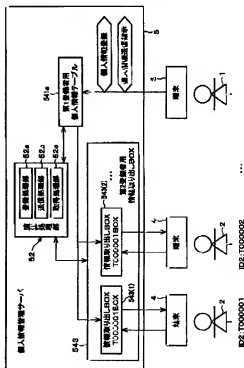
5B085 AE02 BA07 BG02 BC03 BG07

(54) 【発明の名称】 個人情報の管理方法、管理装置および管理システムならびに個人情報管理プログラムおよびそれを記録した記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 重複する個人情報の登録作業を簡略化し、個人情報情報を簡便かつ迅速に第三者へ提供する。

【解決手段】 個人情報の登録者である第1登録者1についての個人情報をも、第1登録者用個人情報テーブル541aに第1登録者のIDと対応付けて登録しておく。また、個人情報情報を請求する第2登録者2についての個人情報をも個人情報管理サーバ5に第2登録者2のIDと対応付けて登録しておく。個人情報管理サーバ5では、登録済の個人情報の送信先が選択されると、第2登録者2のIDに対応して情報取り出しBOX543(1)・・・を特定し、第1登録者1から取得した第1登録者のIDに対応する個人情報のレコードを第1登録者用個人情報テーブル541aから読み出して情報取り出しBOX543(n)にコピーする。第2登録者2は、自らのIDで情報取り出しBOX543(n)にアクセスして個人情報を入手する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 個人情報登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録するステップと、

上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録するステップと、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情報により可能にする記憶領域を上記参照者特定情報に個々に対応して形成するステップと、

上記登録者によって入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定するステップと、

上記登録者によって入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えていることを特徴とする個人情報管理方法。

【請求項2】 個人情報に対応付けられ、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報の入力を受け入れるステップと、

上記個人情報を参照する参照者および該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報に対応付けられ、上記参照者を特定する参照者特定情報の入力を受け入れるステップと、

入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に個々に対応して形成された記憶領域を特定するステップと、

入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を、特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えていることを特徴とする個人情報管理方法。

【請求項3】 個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録しておく登録者情報登録手段と、

上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録しておく参照者情報登録手段と、

上記参照者特定情報に個々に対応して形成され、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情報により可能にする記憶領域と、

入力された上記出力先情報に基づいて、上記参照者情報登録手段に登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定する記憶領域特定手段と、

入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を特定された上記記憶領域に読み出す個人情報読出手段とを備えていることを特徴とする個人情報管理装置。

【請求項4】 上記記憶領域に登録された上記個人情報が上記参照者によって取り出され、該個人情報を再び上記記憶領域へ読み出すことを禁止する読出禁止手段を備えていることを特徴とする請求項3に記載の個人情報

管理装置。

【請求項5】 請求項3または4に記載の個人情報管理装置を有する個人情報管理サーバと、

上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、上記個人情報管理サーバに登録された上記個人情報を上記記憶領域に読み出すための指示を行う第1端末と、

上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、上記記憶領域に読み出された上記個人情報を取り出すための指示を行う第2端末とを備えていることを特徴とする個人情報管理システム。

【請求項6】 請求項1または2に記載の個人情報管理方法の各ステップを実行する個人情報管理プログラム。

【請求項7】 請求項6に記載の個人情報管理プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主として、個人情報の登録者が、指定した第三者に対して自己の個人情報をオンラインで提供することが可能な個人情報管理方法および個人情報管理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】住民票データ等の個人の情報を個人情報管理装置と称されるサーバに電子化して保管し、その個人情報を、登録した本人の要請により交付するシステムがある（例えば、特開平11-149504号公報参照）。この公報には、登録者の要請によって特定の参照者にオンラインで登録者に関する個人情報を出力する個人情報管理方法が開示されている。その個人情報管理方法は、具体的には、次のような手順を辿っている。

【0003】まず、登録された個人情報を取り出すときに必要な識別データである問い合わせコードを、登録者の指示により発行して登録者に通知するとともに、個人情報が登録されている個人情報管理装置に登録しておく。その問い合わせコードを、登録者の識別情報（登録者ID）と併せて、登録者によって指定された参照者に通知する。そして、参照者が個人情報を取り出すとき、上記の識別情報と問い合わせコードとを参照者に入力させ、その問い合わせコードが予め記録されている問い合わせコードと一致したときに、問い合わせコードに対応する所望の個人情報を参照者に出力する。

【0004】このような方法によれば、登録者が指定する特定の参照者に対してのみ、個人情報をオンラインで取得させることができ、また、登録者と参照者との間で、電子化されたデータを授受する必要をなくすることができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記公報の方法では、住民票の交付申請等のように、参照者に個人情報を取得させるために登録者に必要とされる上記の処理が頻繁に

生じない場合には不都合がない。しかしながら、登録者と参照者との関係が1対多であって、複数の参照者に対して同様の処理を行う場合には、登録者が各参照者に対して同じ処理を繰り返す行を行わなければならない、煩雑であると共に迅速な手続きを行うことができなかった。

【0006】例えば、複数のメーカーに対してカタログ請求を行う場合に上記の方法を適用する場合、登録者は、メーカー数と同数の問い合わせコードを入手する必要がある、さらに、入手した問い合わせコードを重複および不足することなしに複数の参照者に割り当てた上で、問い合わせコードを参照者に対し通知する必要がある。また、同一メーカーであって複数の製品に対するユーザ登録を行う場合にも、同様に、個人情報の登録処理を繰り返す行を行わなければならない。

【0007】また、参照者にとっても、登録者から問い合わせコードを入手しない限り、個人情報管理装置へのアクセス権が得られない。このため、例えば、個人情報管理装置が問い合わせコードを発行し、情報提供の準備が完了しているにも関わらず、登録者側の端末装置の故障等により登録者が問い合わせコードを入手できなかったり、登録者からの問い合わせコードの通知の遅れ等により参照者が登録者の情報を速やかに取得できなかったりする問題がある。

【0008】さらに、個人情報管理装置は、問い合わせコードの発行、通知、有効/無効の制御といった管理を行う必要があり、特に、参照者によって問い合わせコードに対応した個人情報が出力されない限り、問い合わせコード管理情報を抹消できない。このため、問い合わせコードの有効期限を設定し、その有効期限が経過した場合にのみ問い合わせコード管理情報を抹消するという強行的な手段によって一連の処理を完結させるを行なっていた。つまり、個人情報を参照するという参照者の行為が介在するために、個人情報管理サーバが主体となって一連の処理を進行することができなかった。

【0009】本発明は、以上の問題点に鑑みてなされたものであり、個人情報の主体である個人においては重複する個人情報の登録作業を簡略化し、かつ、個人情報の入手を希望する第三者に対しては個人情報を簡便かつ迅速に提供することができると個人情報管理方法およびその装置を提供することを目的としている。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明の個人情報管理方法は、上記の課題を解決するために、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録するステップと、上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録するステップと、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情報により可能にする記憶領域を上記参照者特定情報に個々に対応して形成するステップと、上

記登録者によって入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定するステップと、上記登録者によって入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報とを特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えていることを特徴としている。

【0011】本発明の他の個人情報管理方法は、個人情報に対応付けられ、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報の入力を受け入れるステップと、上記個人情報を参照する参照者および該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報に対応付けられ、上記参照者を特定する参照者特定情報の入力を受け入れるステップと、入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に個々に対応して形成された記録領域を特定するステップと、入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報と、特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えていることを特徴としている。

【0012】また、本発明の個人情報管理装置は、上記の課題を解決するために、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録しておく登録者情報登録手段と、上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録しておく参照者情報登録手段と、上記参照者特定情報に個々に対応して形成され、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情報により可能にする記憶領域と、入力された上記出力先情報に基づいて、上記参照者情報登録手段に登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定する記憶領域特定手段と、入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を特定された上記記憶領域に読み出す個人情報読出手段とを備えていることを特徴としている。

【0013】上記の装置（および方法）では、予め、登録者特定情報と個人情報とが対応付けられて登録者情報登録手段に登録され、参照者特定情報と出力先情報とが対応付けられて参照者情報登録手段に登録されている。参照者特定情報が定まると、記憶領域が、参照者特定情報に個々に対応して形成される。この記憶領域に記憶された個人情報は、参照者特定情報により取り出しが可能である。

【0014】このように、記憶領域が形成された状態で、例えば登録者によって出力先情報が入力されると、記憶領域特定手段によって、その出力先情報に基づいて、参照者情報登録手段に登録された参照者特定情報に対応する記憶領域が特定される。そして、例えば登録者が登録者特定情報を入力すると、個人情報読出手段によって、その登録者特定情報に対応する個人情報と特定された記憶領域に読み出される。

【0015】このように、記憶領域に読み出された個人

情報が参照者特定情報により取り出しが可能であるで、登録者によって許可された参照者は、登録者の個人情報参照することができる。

【0016】これにより、登録者に対しては、固有情報の出力先を参照者の個々に対して設けられた記録領域で指定するという簡便な方法によって、希望する参照者に対して登録した個人情報を提供することができる。また、従来技術のように、案件を特定するための問い合わせコードを取得し、その問い合わせコードを個人情報参照者との間で交わされる書類に記載することにより情報参照者に通知するという複雑な作業が不要となる。特に、複数の参照者に個人情報参照を許可する場合には、個人情報の個々に付与された出力先情報に基づいて記憶領域の特定を複数実行するという簡単な機能の追加によって一度の手続きによって処理を行うことができる。

【0017】また、参照者に対しては、自己のみが参照を許可された記憶領域にアクセスできるようにしているので、その記憶領域の情報を探視するだけで出力された個人情報取得することができる。それゆえ、従来技術のように、登録者から問い合わせコードを一旦取得し、その問い合わせコードおよび登録者IDを正しく入力することにより個人情報管理装置にアクセスするという煩雑な処理を行う必要がない。

【0018】また、案件を特定するために必要とされる上記の問い合わせコードのような情報、登録者を介して個人情報管理装置から付与されるのではなく、参照者の権限・ルールによってほぼ任意に発行し、管理することができるので、例えば、案件の発生と共に発行することができ、また、案件を特定するために通常付与される出力先情報を利用することができる。したがって、問い合わせコードのような管理情報を新たに管理する必要はない。

【0019】さらに、個人情報個人情報読出手段によって読み出される記録領域では、参照者が参照者特定情報によって取り出しが可能であるので、参照者は、記憶領域からの個人情報の取り出しを指示することで、その個人情報取得することができる。そのような指示は、例えば、マウス等の入力デバイスをクリック操作で実行することが可能である。それゆえ、参照者が個人情報を取得する際に、例えば、案件毎に、氏名、住所等の参照者に関する情報をキーボード等の入力デバイスによって逐一入力する必要がなくなる。また、1つの案件に対して付与される問い合わせコードのような管理情報を、登録者、参照者および個人情報管理装置が共有するので、その管理情報を相互に授受することが不要になる。その結果、簡単なシステムを実現することができる。

【0020】複数の異なる参照者が存在する場合、記憶領域も各参照者に応じて形成される。これにより、登録者が出力先情報を入力すると、その出力先情報に参照者

特定情報を介して対応付けられた記憶領域が特定される。それゆえ、複数の記憶領域が形成されても、登録者によって指定された記憶領域が特定されるので、個人情報の取得を希望する参照者もしくは個人情報の参照を許可した参照者に対して、的確に個人情報の提供を行うことが可能となる。

【0021】個人情報管理装置に対しては、実質的に登録者と参照者との間で必要となる問い合わせコードのような情報を一切管理する必要がないので、処理を簡略化でき、しかも、ハードウェア的にもその情報を保存するための記憶手段の設置が不要である。また、個人情報記憶領域に読み出す処理を参照者がその読み出した個人情報参照する処理と分離することができるので、参照者の行為（出力された個人情報参照したか否か）によって処理の進行が左右されない。それゆえ、登録者により指定された参照者が参照することができる記憶領域に、個人情報の少なくとも一部を出力すれば処理を終了させることができる。したがって、参照者が情報の参照を行うまで一連の処理が継続することにより、処理負担が増大するという問題を回避することができる。

【0022】また、個人情報管理装置においては、登録者情報登録手段を、例えば、汎用のパーソナルコンピュータに内蔵もしくは外付けされるハードディスク、光ディスク等の記憶部に構成し、また、参照者情報登録手段を、個人情報を登録するファイルの特定のレコードを指定するための情報から上記のファイルの特定のレコードを検索して特定する機能を有するCPU等の演算処理部の連携により実現する。また、記憶領域を、ハードディスク、光ディスク等の記憶部に形成し、記憶領域特定手段および個人情報読出手段を演算処理部により実現することで、登録者が登録した個人情報、参照者が参照可能な電子ファイルあるいはその電子ファイルを格納したフォルダ内に読み出すことができる。

【0023】したがって、上述した個人情報管理方法を具体的に実行するハードウェアとしての個人情報管理装置（サーバ）を提供することができる。

【0024】上記の個人情報管理装置は、上記記憶領域に記憶された上記個人情報上記参照者によって取り出されると、該個人情報再び上記記憶領域へ読み出すことを禁止する読出禁止手段を備えていることが好ましい。このように構成することによって、記憶領域に記憶されている個人情報は、参照者によって取り出されると、読出禁止手段によって再び記憶領域に読み出されなくなる。それゆえ、同一の個人情報一度しか記憶領域から取り出せないようになり、第三者による個人情報の取り出しによる情報の漏出の可能性を低減することができる。

【0025】本発明の個人情報管理システムは、上記の個人情報管理装置を有する個人情報管理サーバと、上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、

上記個人情報管理サーバに登録された上記個人情報を上記記憶領域に読み出すための指示を行う第1端末と、上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、上記記憶領域に読み出された上記個人情報を取り出すための指示を行う第2端末とを備えていることを特徴としている。

【0026】上記の構成では、登録者が第1端末から操作することによって、個人情報管理サーバに登録された個人情報が記憶領域に読み出される一方、参照者が第2端末から操作することによって、記憶領域に読み出された個人情報が個人情報管理サーバからネットワークを介して端末に取り出される。また、このシステムでは、第三者に提供しようとする個人情報を予め電子データとして個人情報管理サーバに登録しておき、個人情報の主体である登録者が、その個人情報の提供を認めた参照者を指定することにより、個人情報管理サーバにおいて、その参照者に対して設けられる記憶領域から個人情報を読み出し、さらに、読み出された個人情報へのアクセス許可を上記の参照者に限定している。これにより、登録者においては重複する個人情報の登録作業を簡略化し、かつ、参照者に対しては個人情報を簡便かつ迅速な方法により提供するシステムを構築することができる。しかも、個人情報管理サーバで個人情報を管理することによって、遠隔地の登録者や個人情報管理サーバに対して参照者に対する個人情報の提供を指示することができるとともに、遠隔地の参照者に対して個人情報を提供することができる。

【0027】本発明の個人情報管理プログラムは、前述の個人情報管理方法の各ステップを実行する。また、本発明のコンピュータ読み取り可能な記録媒体は、上記の個人情報管理プログラムを記録している。

【0028】上記のように、個人情報管理方法をプログラムによって実行することで、コンピュータによって、個人情報管理方法を容易に実現することができる。例えば、ネットワーク上に存在する個人情報管理プログラムを、前述のような個人情報管理サーバを構成するコンピュータにネットワークを介してダウンロードすることによって、本発明の個人情報管理方法を提供することができる。また、上記の記録媒体に記録されたプログラムをコンピュータにロードすることによって、本発明の個人情報管理方法を提供することができる。

【0029】

【発明の実施の形態】本発明の実施の一形態について図1ないし図23に基づいて説明すれば、以下の通りである。

【0030】「利用者について」本発明の実施の一形態に係る個人情報管理システムの概略構成を図2に示す。本実施の形態では、個人情報管理サーバ5にアクセスを行うアクセス者に関し、基本的には、個人情報管理システムの利用が許されたアクセス者を利用者と称し、個人

情報管理システムの利用が許されないアクセス者を第三者と称する。さらに、利用者は、予め何らかの情報を登録することが要求されるため、第1登録者1および第2登録者2に区分される。第1登録者1は、自己の個人情報を個人情報管理サーバ5に登録し、第2登録者2を指定することにより、その第2登録者2に対して個人情報を提供しようとする利用者である。また、第2登録者2は、第1登録者1から個人情報を取得しようとする利用者である。

【0031】なお、本実施の形態において、第2登録者2は、付与された第2登録者ID(ID2)に1対1に対応して個人情報管理サーバ5に作成された電子ファイル等の後述する情報取り出しBOX543(n)（図1参照）に対しアクセス可能である。このため、アクセスが許された自己以外の情報取り出しBOX543(n)にアクセスを試みようとする第2登録者2、さらには第1登録者1としてしか登録されていない第1登録者1を、第三者と称する場合がある。

【0032】「システムおよび個人情報管理装置の構成」図2に示すように、本実施の形態に係る個人情報管理システムは、端末3および4と、個人情報管理サーバ5とを備えており、これらがインターネット等のネットワーク7を介して接続されている。

【0033】第1端末としての端末3は、個人情報管理サーバ5に個人情報を登録し、また、登録された個人情報を第2登録者2（参照者）に通知することを個人情報管理サーバ5に指示（依頼）する。第2端末としての端末4は、第1登録者1（登録者）により通知指示された第1登録者1の個人情報を個人情報管理サーバ5から取得する。端末3および4は、パーソナルコンピュータ、ワークステーション、携帯情報端末、インターネット接続機能を有した携帯電話等である。

【0034】個人情報管理サーバ5は、第1登録者1の個人情報を蓄積し、かつ、管理するサーバである。この個人情報管理サーバ5は、パーソナルコンピュータ、ワークステーション等であり、図3に示すように、通信部51と、演算処理部52と、入力部53と、記憶部54と、出力部55とを有している。

【0035】通信部51は、ネットワーク7を介して端末3および4との通信を行う部分である。この通信部51は、ネットワーク7が電話線8である場合にはモデムであり、さらに、TA（ターミナルアダプタ）、ルータ等であってもよい。また、通信部51は、ローカルネットワーク9に接続するための機能を有してもよい。例えば、個人情報管理サーバ5が入力部53および出力部55のいずれも有しない構成では、ローカルネットワーク9に接続された図示しない端末により個人情報管理サーバ5をリモートコントロールできるようになっている。

【0036】演算処理部52は、通信部51あるいは入

力部53から入力された情報に対して演算を行う部分であり、CPU、メモリ等によって構成されている。メモリは、処理結果を一時的に保存しておくためのRAM等のメモリである。演算処理をソフトウェア的に行う場合には、処理手順を記述したプログラムを保存しておくための不揮発性メモリを用意する。あるいは、後述する記憶部54にプログラムを保存しておき、プログラム実行時に記憶部54からそのプログラムを読み出してRAM上で展開し、実行処理を行うこともよい。

【0037】入力部53は、以下に述べる各種管理テーブルの登録、修正、更新等のような入力作業を行うために設けられており、キーボード、マウス、ポインティングデバイス、イメージスキャナ、バーコードスキャナ等である。このような入力部53は、個人情報管理サーバが個人情報管理装置として通常運転している際にはいづれも必要ない。しかしながら、入力部53は、個人情報管理サーバ5のメンテナンスおよび故障解決に対応する場合や、記憶部54に保存されているファイルの編集等をローカルネットワーク9を介せずに個人情報管理サーバ5から直接行う場合には、その際の人力手段として必要である。

【0038】記憶部54は、上記の管理テーブルおよび個人情報管理のための処理を実行するプログラム格納する部分であり、例えば、ハードディスク、光ディスクによって構成されている。また、記憶部54は、通信部51あるいは入力部53から入力された情報および演算処理部52により行われた演算結果、さらには、ネットワークを介して他の端末により保存ファイルの編集あるいは新規ファイルの作成等によって書き込まれる内容を記憶している。

【0039】出力部55は、上記の管理テーブルの内容等を表示・出力するために、情報のソフトコピーおよびハードコピーを行う部分であり、前者に対してはCRT、液晶等のディスプレイが該当する一方、後者に対してはプリンタが該当する。このような出力部55は、個人情報管理サーバが個人情報管理装置として通常運転している際にはいづれも必要ない。しかしながら、出力部55は、個人情報管理サーバ5のメンテナンスおよび故障解決に対応する場合や、記憶部54に保存されているファイルの編集等を個人情報管理サーバ5から直接行う場合には、その際の内容の表示手段として必要である。

【0040】〔記憶部の構成〕記憶部54は、図4に示すように、利用者登録テーブル541、個人認証用テーブル542、第2登録者用情報取り出しBOX543およびプログラム群544を含んでいる。

【0041】利用者登録テーブル541は、第1登録者用個人情報テーブル541aおよび第2登録者用個人情報テーブル541bを有している。第1登録者用個人情報テーブル541a（登録者情報登録手段）は、後述する第

1登録者1に関する個人情報および後述する第1登録者ID（ID1）を格納している。第2登録者用情報テーブル541b（参照者情報登録手段）は、第2登録者2に関する個人情報および後述する第2登録者ID（ID2）を格納している。

【0042】第1登録者用個人情報テーブル541aは、図5に示すように、第1登録者1について、氏名あるいは名称、住所あるいは居所、郵便番号、連絡先（電話番号）、…、性別、年齢、職業、年収、家族構成、居住種別、事業規模等の個人情報として一般に必要とされる情報を登録する。一方、第2登録者用情報テーブル541bは、図6に示すように、第2登録者2について、第1登録者用個人情報テーブル541aと同様な情報を登録する。

【0043】個人認証用テーブル542は、第1登録者管理テーブル542aおよび第2登録者管理テーブル542bを有している。第1登録者管理テーブル542aは、図7に示すように、第1登録者1の登録者ID（後述の第1登録者ID（ID1）とパスワードとを対にして記憶している。一方、第2登録者管理テーブル542bは、図8に示すように、第2登録者2の登録者ID（後述の第2登録者ID（ID2）とパスワードとを対にして記憶している。

【0044】第2登録者用情報取り出しBOX543は、後述する情報取り出しBOX543(n)（nは正の整数）を複数含んでいる。情報取り出しBOX543(n)（図1参照）は、第2登録者2が後述のようにして取り出す第1登録者1の個人情報とをコピーするために設けられる電子ファイルである。情報取り出しBOX543(n)は、単一の電子ファイルであるが、さらには、複数の電子ファイルを含み、それらを受容するフォルダであってもよい。

【0045】プログラム群544は、利用者登録プログラム544a、個人情報送信プログラム544bおよび個人情報取得プログラム544cを有している。

【0046】利用者登録プログラム544aは、利用者（第1登録者1および第2登録者2）が本個人情報システムを利用できるように、各々の情報を個人情報管理サーバに登録するためのプログラムである。利用者登録プログラム544aとしては、第1登録者1の登録処理を行うための第1登録者登録処理プログラムと、第2登録者2の登録処理を行うための第2登録者登録処理プログラムとが用意されている。

【0047】個人情報送信プログラム544bは、第1登録者1からの指示に応じて、指定した第2登録者2用の情報取り出しBOX543(n)を特定し、その情報取り出しBOX543(n)に指定した個人情報をコピーする（読み出す）ためのプログラムである。

【0048】個人情報取得プログラム544cは、情報取り出しBOX543(n)にコピーされた個人情報を、

端末4から取り出すための処理を行うプログラムであって、そのためのユーザインターフェースを提供する。

【0049】個人情報管理システムの詳細が続いて、図1に基づいて、個人情報管理システムについてさらに詳細に説明する。

【0050】前述の演算処理部52は、メモリから読み出されたプログラムを実行することによりそれぞれの機能が実現される機能部であって、登録処理部52aと、送信処理部52bと、取得処理部52cとを含んでいる。登録処理部52aは後述する登録処理を実行し、送信処理部52bは後述する送信処理を実行し、取得処理部52cは後述する取得処理を実行する。

【0051】第1登録者1は、自己の情報を第2登録者2に簡便な方法によって通知しよとする個人情報管理システムの利用者である。この第1登録者1は、個人の場合には自己の個人情報を、企業等の場合には企業に関する情報を個人情報管理サーバ5に事前に登録する。個人情報としては、氏名（企業の場合には、企業名あるいは部署名まで含む名称）、住所（あるいは所在地）、郵便番号、電話、FAX、電子メールアドレス等の連絡先、口座情報等の情報である。このような個人情報については、後に詳述する。これらの情報の登録は、オンライン手続きの場合には、利用者登録プログラム544aの起動により行われる。なお、情報の登録は、郵送等の別の手段により行ってもよい。

【0052】上記の第1登録者1に関する個人情報は、個人情報管理サーバ5の記憶部54に第1登録者用個人情報テーブル541aとして登録される。

【0053】次に、第1登録者1は、通知したい第2登録者2に対して自己の個人情報を通知するように個人情報管理サーバ5に指示する。この指示は、第1登録者1に個人情報管理サーバ5から付与される第1登録者ID（ID1）、第2登録者2に個人情報管理サーバ5から付与される第2登録者ID（ID2）の通知によって行う。この場合、第1登録者ID（ID1）の通知は、第1登録者1が個人情報管理サーバ5にアクセスした場合の認証時に入力された第1登録者IDの取得によって行うことができる。また、第2登録者ID（ID2）については、個人情報管理サーバ5が提供し、第2登録者2の情報（例えば、氏名あるいは名称）を第2登録者ID（ID2）と関連付けてリスト表示した情報選択画面から、所望の第2登録者2を選択することによって指定される第2登録者ID（ID2）を取得することにより通知を行う。

【0054】上記の第1登録者ID（ID1）および第2登録者ID（ID2）の取得により、個人情報管理サーバ5は、第1登録者個人用情報テーブル541aにアクセスし、取得した第1登録者ID（ID1）で特定される個人情報を読み出す。

【0055】次に、上記のようにして読み出した個人情

報の全部あるいはその一部を、取得した第2登録者ID（ID2）を基に、その第2登録者ID（ID2）に1対1に対応して作成されている情報取り出しBOX543(n)にコピーする。この情報取り出しBOX543(n)は、後で説明するように、例えば、電子ファイルである。この電子ファイルは、関連付けされた第2登録者ID（ID2）を有するアクセス（ここでは、第2登録者2）に対してのみアクセス（例えば、情報の読み出し）を許可するようにになっている。

【0056】以上の操作により、第1登録者1により指示され、第2登録者2に対して1対1に対応した情報取り出しBOX543(n)に、第1登録者1の個人情報がコピーされる。

【0057】次に、第2登録者2は、端末4を用いて、自己のみがアクセスを許可されている情報取り出しBOX543(n)に対しアクセスする。

【0058】個人情報管理サーバ5は、第2登録者ID（ID2）の入力を要求し、入力された第2登録者ID（ID2）に対して1対1に存在する情報取り出しBOX543(n)の内容を出力する。ここでの出力は、例えば、端末4への情報取り出しBOX543(n)の内容の表示である。この場合も、必要に応じて、第2登録者2の同一性を判断するために、第2登録者2によって登録されたパスワードの入力を要求するようにしてもよい。これにより、何らかの方法で第2登録者ID（ID2）を入手した第三者が、第2登録者ID（ID2）によって許可された情報取り出しBOX543(n)に容易にアクセスすることを防止することができる。

【0059】さらに、第2登録者ID（ID2）の入力に加え、第2登録者ID（ID2）に1対1に対応している情報取り出しBOX543(n)の名称を入力させることを要求してもよい。この場合、その情報取り出しBOX543(n)の名称は、個人情報管理サーバ5によって厳格に管理され、重複しない唯一の番号が発行されるが、その目的からして、第2登録者ID（ID2）とは全く関連性のない番号を付与することが要求される。これにより、全くアクセス権限のない第2登録者2あるいは第三者が、他の第2登録者2の第2登録者ID（ID2）を用いて、自己以外の情報取り出しBOX543(n)にアクセスすることで、その情報取り出しBOX543(n)の内容が自動的に漏洩することを防止できる。

【0060】【利用者情報の登録処理】以下に、個人情報管理システムにより提供される個人情報管理サービスを利用する利用者の情報を、個人情報管理サーバ5の記憶部54に登録する処理について説明する。

【0061】上記の利用者としては、個人情報を登録する第1登録者1と、この第1登録者1の情報を取得する第2登録者2とが挙げられ、いずれも個人情報管理サービスを利用する前に情報を登録することが必要とされる。

【0062】以下に説明する情報の登録は、各登録者（第1登録者1および第2登録者2）が、各端末3および4を用いてオンラインで登録する形態を用いている。また、情報の登録としては、これに限らず、必要事項が記載された書面を基に、個人情報管理サーバ5の入力部53によって入力し、管理ファイルとして記憶部54に記憶する方法であってもよい。

【0063】登録においては、端末3または4で、図9に示す初期画面11をブラウザ等を利用してCRT等の表示装置に表示させ、第1登録者1または第2登録者2が必要な入力操作を行う。具体的には、まず、登録ボタン11aをクリックすることで前述の利用者登録プログラム544aが呼び出されて実行される。

【0064】このとき、表示される画面が図10に示す利用者登録画面12に切り替わる。この利用者登録画面12において、前述のように、第1登録者1としての登録か、あるいは、第2登録者2としての登録かを選択する。個人情報を登録しようとする利用者により、第1登録者用の情報登録ボタン12aが押されると、演算処理部52の登録処理部52aは、記憶部54から第1登録者登録処理プログラムを呼び出して実行する。また、第1登録者1の個人情報を本個人情報管理システムを利用して得ようとする利用者により、第2登録者用の情報登録ボタン12bが押されると、登録処理部52aは、第2登録者登録処理プログラムを呼び出して実行する。

【0065】また、登録する個人情報の内容については、登録の主旨から両者で異なっていてよく、具体的には、第1登録者1の登録内容は、本発明による個人情報管理サービスの主体情報であるので、前述のように（図5参照）、氏名、住所等の個人情報として一般に必要とされる情報が登録される。この場合、全情報に関して登録されることは要求されない。例えば、氏名あるいは名称、住所あるいは居所等、情報の利用性の観点からある程度汎用性のある項目はその登録を必須事項としているが、年収、家族構成等の、利用度に汎用性があまりなく、より個人のプライバシーに関する情報等のように、第三者（ここでは、第2登録者2）に対して提供したくない情報（入力任意事項）については、空欄であることを許可している。

【0066】以上の情報登録方法自体については、本発明の主題から逸脱するので詳細な説明を省略するが、簡単に説明すれば次のように行われる。

【0067】まず、第1登録者1が、個人情報管理サーバ5がWEBページとして提供する利用者登録画面12に、前述の必須事項さらに必要に応じて入力任意事項を入力して端末3から個人情報管理サーバ5に対して送信する。個人情報管理サーバ5は、受信した情報に関して必須事項の記入漏れ等のチェックを行い、エラーがなければ第1登録者ID（ID1）を発行し、上記の情報が送信されてきた端末3にその結果を通知する処理を行

う。

【0068】第1登録者ID（ID1）は、例えば、「T102611」等の英字、数字、あるいはそれらの組み合わせからなる。第1登録者1に対して唯一の番号が、演算処理部52によって第1登録者ID（ID1）として割り当てられ、第1登録者1の個人情報と共に第1登録者用個人情報テーブル541aに登録される。したがって、第1登録者用個人情報テーブル541aは、第1登録者ID（ID1）を検索キーとして該当するレコードが重複することなしに検索できることが保証されている。このように、利用者情報の登録処理においては、個人情報管理サーバ5はWEBサーバとしての機能を有する。

【0069】なお、WEBサーバの機能を個人情報管理サーバ5から分離し、別体として構成しても当然よい。

【0070】一方、第2登録者2の登録内容は、本個人情報管理システムが提供する個人情報管理サービスの利用によって、正体不明の第三者に第1登録者1の個人情報不正に流出することを防止するために必要とされる。したがって、その登録内容としては、例えば、第2登録者2の氏名あるいは名称等の利用者特定できる情報、および住所あるいは居所等の存在あるいは実態を確認することができ、ある程度の信用を課すことのできる最小限の情報だけであってよい。

【0071】電子ファイルの管理上、図5および図6に示すように、第1登録者用個人情報テーブル541aおよび第2登録者用情報テーブル541bのフォーマットとして同一のものを利用し、第2登録者2の登録情報として必要のない情報（例えば、家族構成、年齢等）欄は空欄であることを許可するようにしてもよい。これにより、第1登録者1の情報を取得する利用者として情報を登録した第2登録者2が、情報提供者である第1登録者1として登録する場合に、既に第2登録者用情報テーブル541bに登録されているデータを活用して、第1登録者1として必要な情報のみを追加するという省略化された操作を可能にする。

【0072】以上の情報登録方法自体については、前述の第1登録者1の登録処理と基本的に同様であるので、重複する説明は省略する。個人情報管理サーバ5は、第2登録者2による登録手続きに対し第2登録者ID（ID2）を発行し、端末4を介して、あるいは郵送等の手段により、その発行を第2登録者2に通知する。

【0073】第2登録者ID（ID2）は、前述の第1登録者ID（ID1）と同様に、例えば、「S641024」等の英字、数字、あるいはそれらの組み合わせからなる。第2登録者2に対して唯一の番号であって、第1登録者IDとも重複することがない番号が、第2登録者ID（ID2）として演算処理部52によって割り当てられ、第2登録者2の個人情報と共に第2登録者用個人情報テーブル541bに登録される。

【0074】本実施の形態では、演算処理部52が、第1登録者1に対する処理であるか、あるいは第2登録者2に対する処理であるかを判別し易くすることを目的として、第1登録者ID(ID1)および第2登録者ID(ID2)を区別して設定している。例えば、第1登録者ID(ID1)は「T*****」であり、第2登録者ID(ID2)は「S#####」である(ただし、*、#はそれぞれ重複しない任意の番号)。

【0075】さらに、第1登録者1と第2登録者2とが同一である場合において、例えば、第1登録者ID(ID1)として「T102611」が付与された第1登録者1の第2登録者ID(ID2)を「S102611」のように設定することは、個人情報管理サーバ5および第1および第2登録者IDを共有する利用者にとって便利である。すなわち、個人情報管理サーバ5は、第1登録者ID(ID1)と第2登録者ID(ID2)に関連付けた管理ファイルを別途に作成・管理することなしに、第1登録者ID(ID1)の先頭番号である「T」のみを「S」に変更するという簡単なデータ操作によって、第1登録者ID(ID1)を基に第1登録者1が第2登録者ID(ID2)を有するか否かを簡単に検索することができる。また、第2登録者2は、異なる関連性のない番号を2つ付与されるよりも、「T」と「S」との違いのみで実質的に単一の番号を付与される方が管理し易いというメリットがある。

【0076】上記のようにして発行された第2登録者ID(ID2)に対応して、記憶部54のユーザ領域としての第2登録者用情報取り出しBOX543に、第2登録者2用の情報取り出しBOX543(n)が作成される。なお、ここでユーザ領域は、第2登録者2が自由にアクセスできるように用意された記憶領域を意味しており、第2登録者ID(ID2)に対応して唯一の記憶領域が提供される。

【0077】情報取り出しBOX543(n)は、前述のように電子ファイルからなるが、単一の電子ファイルで構成される場合には、例えば、第2登録者ID(ID2):「T102611」に対し「T102611BOX」という電子ファイル名が自動的に作成される。第1登録者1から依頼のあった第1登録者1の個人情報は、この電子ファイルに対して追加されるようになっている。また、フォルダの場合には、案件毎に電子ファイルが作成され、複数の電子ファイルの中から所望の電子ファイルを指定することにより、読み出しを可能にしている。

【0078】また、情報取り出しBOX543(n)は、記憶部54内に、第2登録者2毎に設けられたディレクトリであり、情報取り出しBOX番号と第2登録者ID(ID2)とを1対1に対応させている。本実施の形態では、簡単のため、情報取り出しBOX番号は第2登録者ID(ID2)に対し、前記のように、「BOX」と

いうデータを単に付加した名称を用いて作成しているが、第2登録者IDと1対1に対応してさえいれば他のルールに基づき名称を決定してもよい。第2登録者2は自己の情報取り出しBOX543(n)に限り自由にアクセスすることが許されており、後述するように、その情報取り出しBOX543(n)に存在する情報を端末4の出力部に表示・出力することで内容の確認ができるようになっている。

【0079】なお、第2登録者2は、情報取り出しBOX543(n)に存在する情報への書き込みは行えないようになっている。

【0080】ここで、演算処理部52が行う利用者登録の登録処理の手順を図11のフローチャートを参照して説明する。

【0081】[ステップS1] 利用者登録処理が、初期画面11によって選択されたか否かを判定する。ここで、選択されていればステップS2に進み、利用者登録処理が選択されていなければ本ステップに戻る(もしくは処理を終了してもよい)。

【0082】[ステップS2] 第1登録者1の個人情報を登録する処理が利用者登録画面12によって選択されたか否かを判定する。ここで、その登録処理が選択されていればステップS3に進み、選択されていなければステップS4に進む。

【0083】[ステップS3] 第1登録者1の個人情報を登録する処理手順を示した第1登録者登録処理プログラムを起動する。

【0084】[ステップS4] 第2登録者2の個人情報を登録する処理が利用者登録画面12によって選択されたか否かを判定する。ここで、その登録処理が選択されていれば、ステップS5に進み、選択されていなければ、処理を終了する(もしくはエラー処理を行ってもよい)。

【0085】[ステップS5] 第2登録者2の個人情報を登録する処理手順を示した第2登録者登録処理プログラムを起動する。

【0086】次に、演算処理部52が行う第2登録者2の登録処理の手順を図12のフローチャートを参照して説明する。

【0087】[ステップS11] 第2登録者用の情報登録画面(図示せず)を端末4に表示する。この情報登録画面は、予め、例えば、HTML(Hyper Text Markup Language)により記述されたHTMLファイルとして記憶部54に格納されている。

【0088】[ステップS12] 上記の情報登録画面において、入力され送信された情報に関し、必要な情報が入力されているか否かの判定を行う。ここで、必要な情報の入力を確認するとS13に進み、情報の欠落等があればステップS11に戻る(もしくはエラー処理を行ってもよい)。

【0089】「ステップS13」第2登録者ID (ID2) を発行する。第2登録者ID (ID2) は、前述のように第2登録者2に対し単一かつ唯一の番号であるので、発行毎に異なる番号が出力される。例えば、前回発行した第2登録者ID (ID2) を記憶部54に記憶しておき、それに+1だけインクリメントすることにより新たな第2登録者ID (ID2) を生成する。あるいは、ランダム値発生プログラムにより既に発行している番号と重複しない番号を第2登録者ID (ID2) として用いてもよい。

【0090】「ステップS14」本ステップは、本発明の特徴の一つであり、ステップS13で発行された第2登録者ID (ID2) に対応して、記憶部54内に情報取り出しBOXを作成する。具体的には、記憶部54に記憶領域(第2登録者用情報取り出しBOX543)を確保し、新たな電子ファイルを作成する。この電子ファイルは、発行された第2登録者ID (ID2) の数に対応して複数作成されるため、演算処理部52がそれらを特定できるように重複しないファイル名が付与される。最も簡単な方法は、発行された第2登録者ID (ID2) を基に、例えば、「BOX」という情報を追加することである。

【0091】「ステップS15」ステップS13およびS14により作成した第2登録者ID (ID2) および情報取り出しBOXへのアクセス方法を示した情報を端末4に表示もしくは通知する。

【0092】以上のステップを経て、第2登録者2としての登録が終了する。これにより、第2登録者2は、付与された第2登録者ID (ID2) を識別情報として個人情報管理サーバ5にアクセスして、第2登録者ID (ID2) に対応して設けられた情報取り出しBOX543(n)へアクセスすることが可能になる。

【0093】「個人情報の送信処理」引き続き、第1登録者1による、自己の個人情報の第2登録者2への送信処理について説明する。

【0094】演算処理部52の送信処理部52bは、図9に示す初期画面11において情報送信ボタン11bが押されたことを検知すると、記憶部54から個人情報送信プログラム544bを呼び出して実行する。端末3に図13に示す認証画面13aが表示されると、第1登録者1は、この認証画面13aにおいて、「登録者ID」をID入力欄13aに入力すると共に、「パスワード」をパスワード入力欄13bに入力し、さらにログインボタン13cをクリックする。

【0095】以下に述べるように、「登録者ID」の入力は必須であり、これにより送信すべき個人情報の対象としての第1登録者1およびそのコードが特定されるようになっている。また、「パスワード」は、個人情報管理サーバ5へのアクセス者が第1登録者1として登録された本人であるかの認証を行うために必要であるが、

ネットワークシステムのセキュリティが保証されるのであれば、省略してもよい。

【0096】送信処理部52bは、これらの操作が完了したことを検知し、認証が成功したことを確認すると、第1登録者1がアクセスを行っている端末3に図14に示す情報送信画面14aを表示する。第1登録者1は、この情報送信画面14aにおいて、「案件No.」を案件番号入力欄14aに入力し、次画面ボタン14bをクリックする。

【0097】ここで、認証の成功とは、入力された登録者IDおよびパスワードが、第1登録者管理テーブル542a(図7参照)に既に登録されている情報と同一か否かを判断することで行う。また、登録者IDは個人情報管理サーバ5によって発行される一方、パスワードは第1登録者1によって任意に与えられる。パスワード情報を必要としない場合には、第1登録者用個人情報テーブル541a(図5参照)の第1登録者ID (ID1) 情報欄のデータを認証の際の検索対象として用いることができる。

【0098】また、前記の「案件番号」は、第1登録者1と第2登録者2との間で管理される情報であり、個人情報管理サーバ5は、その情報の発行、管理には関与していない。つまり、情報取り出しBOX543(n)に存在する情報を取得しようとする第2登録者2が、どの案件に関する情報であるかを自ら特定することができるように用意された情報である。したがって、第1登録者1と第2登録者2との間で、どの案件に対する情報の送信であるかの確認が不要である場合には不要である。したがって、情報送信画面14aおよび次に述べる情報送信画面15を端末4に表示する順序を入れ換えてもよい。

【0099】「案件番号」は、上記のように、個人情報管理サービスを実行する上で必須の要件ではないが、実用上は付加した方が好ましい情報である。この情報を利用するには、個人情報管理サーバ5が、案件番号をデータとして取り込み、記憶するものの、そのデータ自体に対して参照、加工等の操作を行うことなしに、後述する情報取り出し画面22(図20参照)において、原データをそのまま表示するだけである。それゆえ、扱う文字の種別・文字数等の制限は課すとしても、案件番号の発行・管理は、第2登録者2が主体となって任意に行うことができる性質のものである。したがって、結果として、異なる第2登録者2が、同一の案件番号を使用したとしても問題は生じない。

【0100】送信処理部52bは、情報送信画面14aにおける入力操作が完了したことを検知すると、図15に示す情報送信画面15aを表示する。この情報送信画面15aには、第2登録者2として登録されている利用者(送信先)の情報がリスト15aに表示されている。リスト15aから送信先すなわち出力先が選択されて、送信ボタン15bがクリックされると、送信先が決定される。

【0101】このリスト15aは、第2登録者用情報テーブル541b(図6参照)を用いて作成されるか、あるいは必要部分のみが表示されることにより得られる。その作成・表示の際の情報としては、第2登録者用情報テーブル541bの項目のうち、氏名・名称等の送信先として判別あるいは特定できる必要最低限の情報でよい。また、送信先を選択するためにチェック欄が設けられている。

【0102】上記のリスト15aは、アルファベット順および50音順に再整理されて表示されるようになっているが、送信先コード順に並べ替えて表示されてもよい。このときの送信先コードは、第2登録者用情報テーブル541bの第2登録者ID(ID2)情報欄のデータを流用することができる。これは、第2登録者ID(ID2)が第三者に流出しても、悪用される虞がないからである。

【0103】なお、登録されている第2登録者2の数が多き場合には、該当する送信先の項目を迅速に探し出すことが困難になる場合がある。このような場合には、検索機能を付加するようにしてもよい。

【0104】また、第2登録者2が第1登録者1に対し、自己の送信先コードを事前に通知するようにするならば、図16に示す情報送信画面16のように、送信先コードを直接入力する形態であってよい。第1登録者1は、この情報送信画面16において、「送信先コード」を送信先コード入力欄16aに入力し、送信ボタン16bをクリックする。このような操作により、1つの情報送信画面16で送信先が決定され、送信先を決定する入力に要する時間を短縮することができる。

【0105】さらに、送信先の選択は1つに限らず、複数のを同時に選択するようにしてもよい。これにより、第1登録者1は、1回の送信処理により、複数の第2登録者2に対し、同一情報を送信することができる。例えば、同一メーカーであって、液晶TVおよびエアコンに対するユーザ登録を同時に行う場合には、第2登録者2として別個に登録されている「X株式会社液晶TV部門」および「X株式会社エアコン部門」を選択することにより送信を行う。あるいは、複数のPC(パソコン)販売会社に対してPCのカatalogを要求する場合にも、上記の送信方法を利用できる。

【0106】第1登録者1により送信先が選択されると、送信処理部52bは以下の処理を行う。

【0107】まず、認証時において取得した第1登録者ID(ID1)を基に、図4に示す第1登録者用個人情報テーブル541aを用いて、送信する個人情報レコードを特定する。次に、情報送信画面15において取得した送信先情報(例えば、送信先コードとて用いられる第2登録者ID(ID2))を基に、ステップS1(図11参照)で特定した情報の送信先を特定する。

【0108】次に、図8に示す第2登録者管理テーブル

542bを用いて、第2登録者ID(ID2)を基に、これをする第2登録者2に専用の情報取り出しBOX543(n)を特定する。

【0109】以上のように、送信処理部52bは、第1登録者ID(ID1)と、第2登録者ID(ID2)と、さらに好ましくは案件番号とを取得することで、個人情報送信プログラム544bを完遂することができる。

【0110】なお、この個人情報送信プログラム544bは、上記の3つの情報が逐一入力される毎に処理を進行させるが、これに限らず、次のように一括して処理を行わせるもよい。

【0111】例えば、図17に示すように、上記の3つの情報が演算処理部52に一括して入力される場合には、演算処理部52は、入力された一括データから第1登録者IDデータJ1、第2登録者IDデータJ2、案件番号データJ3をそれぞれ分離する。次いで、第1登録者IDデータJ1で指定される個人情報データを、第1登録者用個人情報テーブル541aから読み出し、その個人情報データに案件番号データJ3で指定される案件番号データを結合し、結合されたデータを第2登録者IDデータJ2で指定される第2登録者用情報取り出しBOX543に保存する。この場合、上記の3つのデータの配列順と操作内容との間に取り決めが必要であることは言うまでもない。

【0112】ここで、個人情報送信の処理手順を図18のフローチャートを参照して説明する。なお、概略のステップは、送信する個人情報を特定するステップと、その個人情報の送信先を特定するステップとからなる。

【0113】[ステップS21] 個人情報送信処理が、初期画面11によって選択されたか否かを判定する。

【0114】[ステップS22] 個人情報送信先リストを表示する。このリストは、前述のように、第2登録者2情報を基に作成され、具体的に、第2登録者用情報テーブル541bから、氏名あるいは名称等の第2登録者2を特定できる情報を抽出して作成される。

【0115】[ステップS23] 表示された個人情報送信先リストの中から、送信先が選択されているか否かを判定する。送信先が選択されていればステップS24に進み、何も選択されていないときには、必要に応じてエラー表示等を行い、送信先が入力されるまで本ステップの処理を繰り返す。

【0116】なお、第2登録者2を特定する、例えば、送信先コード情報を直接入力要求する場合には、その送信先コード情報が入力されているか否かの判断により行う。

【0117】[ステップS24] 選択された送信先情報から、第2登録者ID(ID2)を取得する。

【0118】[ステップS25] 取得した第2登録者ID(ID2)に対応して記憶部54に作成されている情

報取り出しBOX543(n)を特定する。

【0119】「ステップS26」第1登録者ID(ID1)を取得する。この第1登録者ID(ID1)の取得は、第1登録者1が個人情報管理サーバ5にアクセスした場合に人力要求するようにして行ってもよいし、あるいは、本ステップで新たにあるいは改めて人力要求するようにしてもよい。

【0120】「ステップS27」ステップS26で取得した第1登録者ID(ID1)を基に、記憶部54に第1登録者用個人情報テーブル541aを参照して、該当するレコードを特定する。

【0121】「ステップS28」ステップS27で特定されたレコード情報を読み出し、ステップS25で特定された情報取り出しBOX543(n)にそのレコード情報の全部あるいは一部をコピーする。

【0122】ここでのコピーとは、電子データレベルでの完全一致性を意味するものでなく、そのような完全なコピーに加え、第1登録者用個人情報テーブル541a(いわゆるオリジナルデータ)に入力されている氏名、住所等の情報の中から、必要な情報を抽出して、第1登録者用個人情報テーブル541aとは別のファイルとして作成したものを包含している。したがって、そのファイルにより得られる情報が、第1登録者用個人情報テーブル541aから得られる抽出情報と実質的に同じであれば、表示形式、データの配列順が異なっても構わない。

【0123】「ステップS29」ステップS23により、送信先が複数選択されたか否かを判定する。ここで、送信先が複数選択されていればステップS24に戻り、同様の処理を行う。また、他に送信先が選択されていない場合には、処理を終了し、例えば、図9に示す初期画面11を表示するようにする。

【0124】「個人情報の取得処理」さらに、第1登録者1の申請により提供される第1登録者1の個人情報第2登録者2が取得する処理について説明する。

【0125】既に説明したように、第2登録者2は、端末4から個人情報管理サーバ5の記憶部54に格納され、管理されている情報取り出しBOX543(n)にアクセスすることにより、所望の個人情報を取得する。この処理は、前述の個人情報取得プログラム544cによって実行される。個人情報取得プログラム544cは、このために、後述する情報取り出し画面21等の画面をユーザインターフェースとして第2登録者2に提供する。

【0126】第2登録者2が個人情報管理サーバ5にアクセスしたとき、端末4において、例えば、図19に示すような情報取り出し画面21が表示される。この情報取り出し画面21においては、情報取り出し可能な個人情報がリスト21aに記載されている。同図では、3件の個人情報がある場合について示している。また、どの

案件に対する個人情報であるかを特定することができるように、情報取り出し画面21には、案件番号、さらに付加情報として個人情報該当する情報取り出しBOX543(n)に入力された日時情報が付随して記載されている。第2登録者2は、リスト21aの各行の先頭に設けられたチェック欄をチェックして該当する案件を選択して、実行ボタン21bをクリックする。

【0127】演算処理部52の取得処理部52cは、リスト21aからの案件の選択および実行ボタン21bのクリック操作を確認すると、図20に示す情報取り出し画面22を表示して、選択された案件に対する個人情報を一覧表22aに表示する。第2登録者2は、この情報取り出し画面22により、案件番号を基に自己が管理する図示しない案件管理テーブルと表示された個人情報とを関連付けることにより、案件に対して個人情報を結合することができる。

【0128】第2登録者2が、情報取り出し画面22における戻るボタン22bをクリックすると、図21に示す情報取り出し画面21が再び表示される。この情報取り出し画面21では、第1登録者1の個人情報が一旦表示されると、その個人情報リスト21aから削除されている。このリスト21aには、未請求の2件の案件のみが表示されている。

【0129】このように、読出禁止手段としての機能する取得処理部52cが、一旦、個人情報をCRT画面等に表示することにより端末4に対し出力した場合には、情報取り出しBOX543(n)に存在する個人情報を速やかに消去することで、同一情報であっても再取得できないようにし、情報取り出しに関して権限のある第2登録者2以外の第三者による不法な情報漏出の可能性を低減することができる。

【0130】また、情報を削除する権限を第2登録者2に持たせる場合には、第2登録者2が削除処理を行わない限り、個人情報が情報取り出しBOX543(n)に存在することになる。したがって、不必要に個人情報入手可能な状態にしておくことは、第2登録者2が個人情報を第1登録者1との間で取り決めた案件以外に利用する可能性を残しており好ましくない。

【0131】上記の個人情報の取得処理においては、情報取り出し画面21の代わりに、図22に示す情報取り出し画面23を表示させるようにしてもよい。

【0132】この情報取り出し画面23では、リスト23aに「読み出し」情報欄が設けられている。この情報欄には、該当する個人情報を表示したか否かが判別できるように、「未」あるいは「済」のいずれかが表示されるようになっている。同図に示す状態では、まだ、いずれの個人情報も表示されていないため、上記の情報欄には、全て「未」が表示されている。

【0133】この情報取り出し画面23において、例えば、案件番号:Q01359に関する個人情報を選択さ

れて実行ボタン23bがクリックされると、前記の場合と同様にして、情報取り出し画面22で該当する案件の個人情報が表示される。そして、この情報取り出し画面22で戻るボタン22aがクリックされると、図23に示す情報取り出し画面23が表示される。

【0134】この情報取り出し画面23では、リスト23aにおける「読み出し」情報欄が、表示された案件について「未」から「済」に変化している。これにより、第2登録者とは、その情報を判別することで、いわゆる「未読」と「既読」とを区別することができる。それゆえ、「未読」と「既読」とが区別できないことによって、入手可能な個人情報と自己が管理する案件管理テーブルとの結合が行えないまま、その個人情報が削除されることにより取得不可となるという不都合を回避することができる。

【0135】しかしながら、この場合には、同一の個人情報をも何回でも表示できるようにするために、前述のような第三者への個人情報の漏出や目的の案件以外への個人情報の利用といった問題が生じる。このような問題を解決するためには、「日時」情報欄に記載される情報の情報取り出しBOX54(3m)に対する投入日から一定期間経過後(例えば、1ヶ月後)に、個人情報管理サーバ5によって削除するようにすればよい。

【0136】また、本発明の目的は、本実施形態の個人情報管理システムの機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ(またはCPUやMPU)が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出して実行することによっても、達成されることはいうまでもない。

【0137】この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が本実施形態の個人情報管理システムの機能を実現することになる。したがって、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【0138】プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ、不揮発性のメモリカード等を用いることができる。

【0139】また、上記のプログラムコードは、通信ネットワークのような伝送媒体を介して、他のコンピュータシステムから個人情報管理サーバ5の記憶部54へダウンロードされるものであってもよい。

【0140】また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているOS(オペレーティングシステム)などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も本発明に含まれることはいうまでも

ない。

【0141】さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も本発明に含まれることはいうまでもない。

【0142】本発明を上記記憶媒体に適用する場合、その記憶媒体には、先に説明したフローチャートに対応するプログラムコードを格納することになる。

【0143】なお、本発明は、上述した実施形態の詳細に限らず、請求項に示した範囲で種々の変更が可能である。

【0144】

【発明の効果】以上のように、本発明の個人情報管理方法は、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録するステップと、上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録するステップと、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情報により可能にする記憶領域を上記参照者特定情報に個々に対応して形成するステップと、上記登録者によって入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定するステップと、上記登録者によって入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えている構成である。

【0145】本発明の他の個人情報管理方法は、個人情報に対応付けられ、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報の入力を受け入れるステップと、上記個人情報を参照する参照者および該参照者を上記個人情報出力先として指定するための出力先情報に対応付けられ、上記参照者を特定する参照者特定情報の入力を受け入れるステップと、入力された上記出力先情報に基づいて、登録された上記参照者特定情報に個々に対応して形成された記録領域を特定するステップと、入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報を、特定された上記記憶領域に読み出すステップとを備えている構成である。

【0146】また、本発明の個人情報管理装置は、個人情報を登録する登録者を特定する登録者特定情報と該個人情報とを対応付けて登録しておく登録者情報登録手段と、上記個人情報を参照する参照者を特定する参照者特定情報と該参照者を上記個人情報の出力先として指定するための出力先情報とを対応付けて登録しておく参照者情報登録手段と、上記参照者特定情報に個々に対応して形成され、記憶した情報の取り出しを上記参照者特定情

報により可能にする記憶領域と、入力された上記出力先情報に基づいて、上記参照者情報登録手段に登録された上記参照者特定情報に対応する上記記憶領域を特定する記憶領域特定手段と、入力された上記登録者特定情報に対応する上記個人情報と特定された上記記憶領域に読み出す個人情報読出手段とを備えている構成である。

【0147】これにより、登録者に対しては、固有情報の出力先を参照者の個々に対して設けられた記憶領域で指定するという簡便な方法によって、希望する参照者に対して登録した個人情報を提供することができる。また、従来技術のように、案件を特定するための問い合わせコードを取得し、その問い合わせコードを個人情報参照者との間で交わされる書類に記載することにより情報参照者に通知するという複雑な作業が不要となる。特に、複数の参照者に個人情報の参照を許可する場合には、個人情報の個々に付与された出力先情報に基づいて記憶領域の特定を複数実行するという簡単な機能の追加によって一度の手続きによって処理を行うことができる。一方、参照者に対しては、自己のみが参照を許可された記憶領域にアクセスできるようになっているので、その記憶領域の情報を監視するだけで出力された個人情報取得することができ、それゆえ、従来技術のように、登録者から問い合わせコードを用いた煩雑なアクセス処理を行う必要がない。

【0148】また、上記の問い合わせコードのような情報を、登録者を介して個人情報管理装置から付与されるのではなく、参照者の権限・ルールによってほぼ任意に発行し、管理することができるので、例えば、案件の発生と共に発行することができ、また、案件を特定するために通常付与される出力先情報を利用することができる。したがって、問い合わせコードのような管理情報を新たに管理する必要はない。

【0149】さらに、参照者は、記録領域に対して参照者特定情報によって取り出しが可能であるので、記憶領域からの個人情報の取り出しを指示することで、その個人情報取得することができる。そのような指示は、例えば、マウス等の入力デバイスのクリック操作で実行することが可能である。それゆえ、参照者が個人情報を取得する際に、案件毎に、氏名、住所等の参照者に関する情報を逐一入力する必要がなくなる。また、1つの案件に対して付与される問い合わせコードのような管理情報を、登録者、参照者および個人情報管理装置が共有するので、簡単なシステムを実現することができる。

【0150】複数の異なる参照者が存在する場合、記憶領域も各参照者に応じて形成される。これにより、登録者が出力先情報を入力すると、その出力先情報に参照者特定情報を介して対応付けられた記憶領域が特定される。それゆえ、複数の記憶領域が形成されても、登録者によって指定された記憶領域が特定されるので、個人情報の取得を希望する参照者もしくは個人情報の参照を許

可した参照者に対して、的確に個人情報の提供を行うことが可能となる。

【0151】個人情報管理装置に対しては、実質的に登録者と参照者との間で必要となる問い合わせコードのような情報を一切管理する必要がないので、参照者の行為（出力された個人情報を参照したか否か）によって処理の進行為が左右されない。それゆえ、登録者により指定された参照者が参照することができ、記憶領域に、個人情報の少なくとも一部を出力すれば処理を終了させることができる。したがって、参照者が情報の参照を行うまで一連の処理が継続することにより、処理負担が増大するという問題を回避することができる。

【0152】また、個人情報管理装置においては、登録者情報登録手段を、例えば、汎用のパーソナルコンピュータに内蔵もしくは外付けされるハードディスク、光ディスク等の記憶部に構成し、また、参照者情報登録手段を、個人情報を登録するファイルの特定のレコードを指定するための情報から上記のファイルの特定のレコードを検索して特定する機能を有するCPU等の演算処理部の連携により実現する。また、記憶領域を、ハードディスク、光ディスク等の記憶部に形成し、記憶領域特定手段および個人情報読出手段を演算処理部により実現することで、登録者が登録した個人情報と、参照者が参照可能な電子ファイルあるいはその電子ファイルを格納したフォルダ内に読み出すことができる。

【0153】したがって、上記の個人情報管理方法および個人情報管理装置を採用することによって、重複する個人情報の登録作業を簡略化し、かつ、個人情報を簡便かつ迅速に第三者へ提供することができ、個人情報の提供を効率的に行うことができるという効果を奏する。

【0154】上記の個人情報管理装置は、上記記憶領域に記憶された上記個人情報が上記参照者によって取り出されると、該個人情報を再び上記記憶領域へ読み出すことを禁止する読出禁止手段を備えていることにより、記憶領域に記憶されている個人情報は、参照者によって取り出されると、読出禁止手段によって再び記憶領域に読み出されなくなる。それゆえ、同一の個人情報を一度しか記憶領域から取り出せないようになり、第三者による個人情報の取り出しによる情報の漏出の可能性を低減することができる。したがって、参照者への個人情報の提供をより信頼性を高めて行うことができるという効果を奏する。

【0155】本発明の個人情報管理システムは、上記の個人情報管理装置を有する個人情報管理サーバと、上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、上記個人情報管理サーバに登録された上記個人情報を上

記憶領域に読み出すための指示を行う第1端末と、上記個人情報管理サーバとネットワークを介して接続され、上記記憶領域に読み出された上記個人情報を読み出すための指示を行う第2端末とを備えている構成である。

【0156】これにより、遠隔地の登録者が個人情報管理サーバに対し参照者に対する個人情報の提供を指示することができるとともに、遠隔地の参照者に対して個人情報を提供することができる。したがって、ネットワークを介した個人情報管理システムを容易に実現することができるという効果を奏する。

【0157】本発明の個人情報管理プログラムは、前述の個人情報管理方法の各ステップを実行する。また、本発明のコンピュータ読み取り可能な記録媒体は、上記の個人情報管理プログラムを記録している。

【0158】これにより、上記のプログラムをコンピュータに実行させることで、個人情報管理方法を容易に実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の一形態に係る個人情報管理システムの個人情報の取り出しに関する部分を詳細に示したブロック図である。

【図2】上記個人情報管理システムの概略構成を示すブロック図である。

【図3】上記個人情報管理サーバの構成を示すブロック図である。

【図4】上記個人情報管理サーバに設けられる記憶部の構成を示す説明図である。

【図5】上記記憶部に形成される第1登録者用個人情報テーブルの一例を示す説明図である。

【図6】上記記憶部に形成される第2登録者用情報テーブルの一例を示す説明図である。

【図7】上記記憶部に形成される第1登録者管理テーブルの一例を示す説明図である。

【図8】上記記憶部に形成される第2登録者管理テーブルの一例を示す説明図である。

【図9】利用者が上記個人情報管理サーバにアクセスしたときに端末に表示される初期画面の構成を示す説明図である。

【図10】上記初期画面の次に表示される利用者登録画面の構成を示す説明図である。

【図11】上記個人情報管理システムを利用する利用者の情報登録のための処理手順を示すフローチャートである。

【図12】上記個人情報管理システムを利用する第2登録者の情報登録のための処理手順を示すフローチャートである。

【図13】上記個人情報管理システムによる個人情報の送信処理で利用者が上記個人情報サーバにアクセスしたときに端末に表示される認証画面の構成を示す説明図で

ある。

【図14】上記認証画面に続いて表示される情報送信画面の構成を示す図である。

【図15】図14の情報送信画面に続いて表示される情報送信先を選択するための情報送信画面の構成を示す説明図である。

【図16】上記認証画面に続いて表示される他の情報送信画面の構成を示す図である。

【図17】上記個人情報管理サーバにおける演算処理部に入力される個人情報送信処理実行のためのデータ構成の一例を示す説明図である。

【図18】上記個人情報管理システムによる個人情報送信の処理手順を示すフローチャートである。

【図19】上記個人情報管理システムによる個人情報の取り出し処理で利用者が上記個人情報サーバにアクセスしたときに端末に表示される情報取り出し画面の構成を示す説明図である。

【図20】図19の情報取り出し画面で選択された案件の個人情報を表示するための情報取り出し画面の構成を示す説明図である。

【図21】図19の情報取り出し画面が図20の情報取り出し画面で個人情報が表示された後に変化した状態を示す説明図である。

【図22】上記個人情報管理システムによる個人情報の取り出し処理で利用者が上記個人情報サーバにアクセスしたときに端末に表示される情報取り出し画面の他の構成を示す説明図である。

【図23】図22の情報取り出し画面が図20の情報取り出し画面で個人情報が表示された後に変化した状態を示す説明図である。

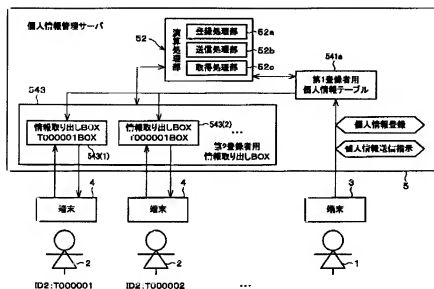
【符号の説明】

- 1 第1登録者（登録者）
- 2 第2登録者（参照者）
- 3 第1端末
- 4 第2端末
- 5 個人情報管理サーバ（個人情報管理装置）
- 7 ネットワーク
- 52 演算処理部
- 52a 登録処理部
- 52b 送信処理部
- 52c 取得処理部（読出禁止手段）
- 54 記憶部
- 541a 第1登録者用個人情報テーブル（登録者情報登録手段）
- 541b 第2登録者用情報テーブル（参照者情報登録手段）
- 542a 第1登録者管理テーブル
- 542b 第2登録者管理テーブル
- 543(n) 情報取り出しBOX
- 544a 利用者登録プログラム

5.4.4 b 個人情報送信プログラム

5.4.4 c 個人情報取得プログラム

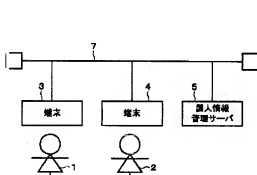
【図1】



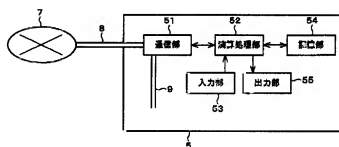
【図7】

第1登録者ID	パスワード
T000001	
T000002	
...	

【図2】



【図3】



【図5】

第1登録者ID (ID1)	氏名	住所	郵便番号	連絡先1 電話番号	連絡先2 電子メール	連絡先3 FAX	...
T000001							
T000002							
...							

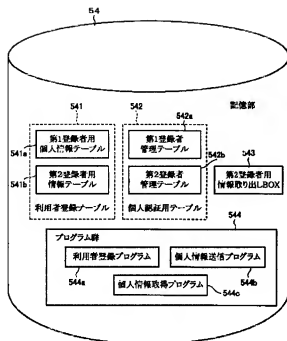
【図8】

第2登録者ID	パスワード
S000001	
S000002	
...	

【図17】

J1	J2	J3
ID1	ID2	家内番号

【図4】



【図6】

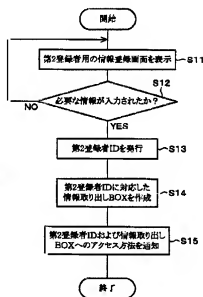
541b

第2登録者ID (ID2)	氏名	住所	郵便番号	連絡先1 電話番号	連絡先2 電子メール	連絡先3 FAX	...
S000001							
S000002							
...							

【図10】

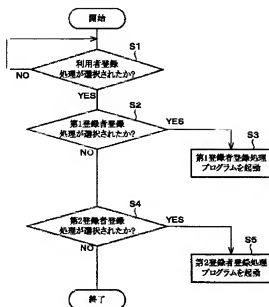
【図9】

【図12】



【図13】

【図11】



【図14】

情報送信画面

案件番号を入力して下さい。

No. 14a

次へ 14b

【図15】

情報送信画面

情報送信先を選択して下さい。

チェック	送信先名称	送信先コード
<input type="checkbox"/>	ABC(株)	T102611
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	...	

送信 15c

【図16】

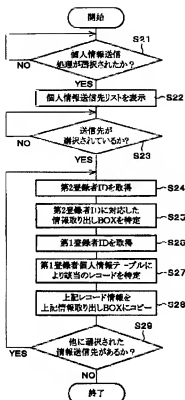
情報送信画面

情報送信先を入力して下さい。

送信先コード: 16a

送信 16b

【図18】



【図19】

情報取り出し画面

現在、以下の取り出し可能な情報があります。
取り出す情報を選択して下さい。

チェック	案件番号	日時
<input checked="" type="checkbox"/>	Q01359	2001/1/5
<input type="checkbox"/>	Q49504	2000/12/25
<input type="checkbox"/>	Q39655	2000/12/24

実行

【図21】

情報取り出し画面

現在、以下の取り出し可能な情報があります。
取り出す情報を選択して下さい。

チェック	案件番号	日時
<input type="checkbox"/>	Q49504	2000/12/25
<input type="checkbox"/>	Q39655	2000/12/24

実行

【図20】

情報取り出し画面

選択された情報は以下の通りです。

案件番号	氏名	住所	郵便番号	...
Q01359	山田太郎	奈良県天理市	173-4567	...

戻る

